



写真で見る第17回学会大会

日本災害情報学会は、第17回学会大会（研究発表会、総会など・実行委員長：鈴木猛康山梨大学総合研究部工学域教授）を平成27年10月24日、25日の日程で、甲府市総合市民会館・山梨大学で開催した。大会では93件（口頭71件、ポスター22件）の研究発表が行われ、258名が参加して活発な議論が展開された。また、大会前日には、富士山コースと伝統治水工法コースのエクスカージョンを、大会初日には「大規模水害時の住民避難における地域連携」をテーマに公開シンポジウムを実施した。

10月23日（金）	エクスカージョン（富士山コース・伝統治水工法コース）	
10月24日（土）	（甲府市総合市民会館）	
	受付開始	9時00分～
	口頭発表	9時30分～11時40分 A会場 B会場
	総会	11時50分～12時30分 芸術ホール
	ポスターセッション	13時30分～15時00分 多目的ホール
	総会・廣井賞表彰式	15時00分～16時20分 芸術ホール
	公開シンポジウム	16時40分～18時30分
	懇親会	19時00分～20時30分 山の都アリーナ
10月25日（日）	（山梨大学）	
	受付開始	9時00分～
	口頭発表	9時30分～12時00分 C会場 D会場、E会場
	昼休み	12時00分～13時00分
	口頭発表	13時00分～16時50分 C会場、D会場、E会場
	阿部賞・河田賞表彰式	17時00分～17時15分 C会場



全国各地から258名が甲府に！

写真で見る学会大会2015



口頭発表



ポスターセッション

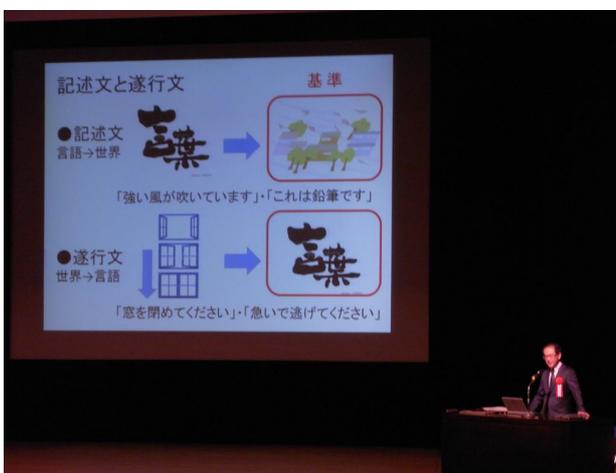


廣井賞授賞式・記念講演

日本災害情報学会は 2006 年、初代会長の故廣井脩氏（元東京大学大学院教授）の志を後世に伝えるため廣井賞を創設し、9 回目の授与式を 10 月 25 日、学会大会席上で行った。

今年荣誉に輝いたのは下記の学術的功績分野 1 名。

分野	受賞者	対象功績
学術的功績 (個人)	矢守克也氏 京都大学防災研究所教授	氏は、社会心理学をバックグラウンドとして災害・人の関わりに関して念入りなフィールドワークに取り組み、常に客観的な視点からの検討を行い「防災人間科学」という新たな学問分野に発展させようとしている。その研究成果は、ほぼ 1 年 1 冊という驚異的なペースで刊行される著書群として世に示されている。また、防災教材として広く知られた「クロスロード」や「ぼうさいダック」、津波避難訓練およびその分析手法として注目されている「個別避難訓練タイムトライアル(動画避難カルテ)」やそれをスマートフォンアプリへ展開した「スマホ版個別避難訓練」の開発メンバーでもあり、防災教育分野の業績も大きい。



河田賞・阿部賞授賞式

日本災害情報学会は 2014 年、若手会員の奨励を目的に、学会大会での優秀発表に対して、ポスター発表部門には阿部賞、口頭発表部門には河田賞を創設した（両賞は、元会長の阿部勝征氏（東京大学名誉教授）及び河田恵昭氏（京都大学名誉教授）の名を冠したもの）。

今年の実賞者は下記の 7 名。

分野	受賞者	表彰発表タイトル
阿部賞 (優秀若手ポスター賞)	廣井 悠氏 名古屋大学減災連携研究センター	大都市複合災害避難シミュレーションの提案
	鈴木 比奈子氏 防災科学技術研究所	「水害地形分類図デジタルアーカイブ」の構築
河田賞 (優秀若手発表賞)	小谷 稔氏 神戸大学大学院工学研究科	ワイブル分布を用いた災害死亡者数のベイズ推定モデル
	竹之内 健介氏 三重県	生活防災タイムラインを通じた災害対応に対する住民意識の変化
	佐藤 翔輔氏 東北大学災害科学国際研究所	ソーシャルセンシングによる被災地の被害状況と支援ニーズの把握の可能性ー東日本大震災の発生前後に発信された Twitter の分析ー
	倉田 和己氏 名古屋大学減災連携研究センター	仮想現実ソフトウェアと震動体感環境の融合による効果的な減災啓発ツールの開発
	杉山 高志氏 京都大学大学院情報学研究科	夜間における津波避難の課題(その2) 伊予灘地震の実態調査と夜間避難訓練の分析



エクスカーション



懇親会



PHOTO by KAIDA , KUBOTA , KUROKAWA and KURODA,協力 HOSHIKAWA